

くろまぐろ型TACに関する高知県計画（試行）  
（第3管理期間）

平成29年8月30日 公表

第1 太平洋くろまぐろの保存及び管理に関する方針

- 1 本県において太平洋くろまぐろは、釣り漁業や曳き縄漁業、定置網漁業を中心に漁獲されるが、本種の資源状況がこれまでの最低水準付近になっていることから、より一層の適切な管理が必要であるため、本県においても本種が更に安定的で持続的なものとなるよう、国の基本計画により決定された漁獲可能量の本県の数量について適切な管理措置を講じることとする。
- 2 漁獲可能量を適切に管理し、必要に応じて漁業者等の指導又は採捕の数量の公表等実効措置を講じるため、同資源の採捕実績の的確な把握に努めることとする。
- 3 また、漁獲可能量について本県に定められた数量に係る管理を適切に行っていくためには、太平洋くろまぐろの分布、回遊状況、当該資源を取り巻く環境等についてのより詳細な科学的データ又は知見が必要であり、当該データの蓄積又は知見の進展を図るため、本県水産試験場においては、国又は関係都道府県との連携の下、資源調査を進めていく。
- 4 太平洋くろまぐろの適切な保存及び管理を図るため、漁業者間の自主的取り決めを後押しし、引き続き漁業者等による自主的な資源管理を推進する。

第2 太平洋くろまぐろの漁獲可能量について本県に定められた数量に関する事項

- 1 太平洋くろまぐろについて、本県の漁獲上限は次表のとおりである。

太平洋くろまぐろ 30 キログラム未満の小型魚（以下「小型魚」という。）	56.67 トン
太平洋くろまぐろ 30 キログラム以上の大型魚（以下、「大型魚」という。）	国の基本計画第5の1の（2）に定めるように、我が国全体の漁獲量が5,132 トンを超えないよう管理する。

第3管理期間に係るくろまぐろ型のTACに関する基本計画（試行）（以下「基本計画（試行）」という。）第3の2により、我が国の漁獲上限から差し引く必要がある場合には漁獲可能量の改定を行うこととされている。こ

のため、基本計画（試行）の第5のくろまぐろの漁獲可能量について都道府県別に定める数量に関する事項が改定された場合には、本県計画の第2の本県に定められた数量を改定するものとする。

- 2 また、小型魚について、全国において、3423.5トンの数量を超えたときには、本県に定める小型魚の数量が消化されていなくとも、その時点における本県における採捕の実績をもって、本県の小型魚の数量とする。

第3 太平洋くろまぐろの知事管理量について、海洋生物資源の採捕の種類別、海域別又は期間別の数量に関する事項定めなし。

第4 太平洋くろまぐろの知事管理量に関し実施すべき施策に関する事項  
本県では、第2の1に示した知事管理量を遵守するため、以下の保存管理措置を講ずるものとする。

1 一本釣り漁業、曳き縄等（定置網以外の漁業）

(1) 第2の1の知事管理量の7割到達時

- ・ 操業時間短縮又は操業回数（日数）抑制の実施に努める。
- ・ 30キログラム未満で生きている個体の放流に努める。

(2) 第2の1の知事管理量の8割到達時

- ・ 操業時間短縮又は操業回数（日数）抑制の実施に取り組む。
- ・ 30キログラム未満で生きている個体を放流する。

(3) (1)から(2)の取組状況について、漁業者ごとの記録を求め、履行を確認する。

2 一本釣り漁業、曳き縄（養殖用種苗の採捕を目的とするもの）

(1) 第2の1の知事管理量の7割到達時

- ・ 操業時間短縮又は操業回数（日数）抑制の実施に努める。
- ・ 種苗にならない生きている個体の放流に努める。

(2) 第2の1の知事管理量の8割到達時

- ・ 操業時間短縮又は操業回数（日数）抑制の実施に取り組む。
- ・ 種苗にならない生きている個体の放流に取り組む。

(3) (1)から(2)の取組状況について、漁業者ごとの記録を求め、履行を確認する。

3 定置網漁業

(1) 第2の1の知事管理量の7割到達時

- ・小型魚の入網が確認された場合又は入網が予想される場合は、網起こし回数の抑制実施に努める。
  - ・30キログラム未満の個体の放流に努める。
- (2) 第2の1の知事管理量の8割到達時
- ・小型魚の入網が確認された場合又は入網が予想される場合は、網起こし回数の抑制実施に努める。
  - ・30キログラム未満の個体の放流に取り組む。
- (3) (1)から(2)の取組状況について、漁業者ごとの記録を求め、履行を確認する。

4 漁獲量の報告は、沿岸くろまぐろ漁業（広域漁業調整委員会指示による承認制）、定置網漁業、その他の漁業（混獲等）別に管下の漁業協同組合分（漁業協同組合に所属していない漁業者については直接報告を求めるなど別途個別対応）の漁獲量報告を取りまとめ、小型魚・大型魚ともに一般社団法人漁業情報サービスセンターに報告する。

報告頻度は、月末締め翌月末までの報告を基本とし、漁獲状況に応じて報告頻度をあげていくこと（概数報告）とする。なお、漁獲が積み上がった場合の頻度は第5に定める報告体制により行うこととする。

5 第2に示した知事管理量の消化状況に応じて、7割で注意報、8割で警報を発出し、9割に達した際は操業の自粛を要請するとともに、管理下漁業者団体及び漁業関係者への周知及び指導方を行うとする。

6 遊漁者及び遊漁船業者に対して、以下の取組を行う。

- ① 漁業者の取組について周知を図る。
- ② 漁業者に対して警報等を発出した場合には、速やかに情報提供を行い、漁業者の取組に歩調を合わせた対応を要請する。
- ③ 漁業者に対して操業自粛要請を発出した場合には、遊漁に対しても操業自粛要請を発出する。

## 第5 その他太平洋くろまぐろの保存及び管理に関する重要事項

- 1 第2に示した小型魚の知事管理量の消化状況について、県は漁協に対して、次のとおりの頻度で報告を求め、漁獲状況を把握することとする。
  - (1) 7割を超え9割に達するまで：月2回（1～15日、16日～末日）
  - (2) 9割を超えた場合：月3回（1～10日、11～20日、21日～末日）
- 2 上記1に基づく報告を求めた場合には、速やかに、集計値を漁協等県内関係者へフィードバックするとともに、水産庁に通知する。